

会長挨拶

明治大学教育会長 田中 徹太郎

～すべての人間は、生命、自由、幸福の追求の権利を持ち
これを何人たりとも奪われることがあってはならない～

ただ今、ご紹介いただきました教育会会長田中徹太郎です。

東日本大震災から10年が経過いたしました。死者15,899名、行方不明者2,526名。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の皆様方に心からお悔やみ申し上げます。

私の元勤務校の、宮城県におけるボランティア活動についてお話し申し上げます。2012年3月に、明治大学のOBである宮城県女川町町長須田善明氏が、本学での講演で多様な連携による被災地の復興を訴えられました。私は、夏休みに女川町に出向き、須田町長に面会いたしました。町長は、小学校の校庭が仮設住宅に使用され、子供達の運動の場所が無くなってしまった。なんとか、彼らが運動で楽しめる機会を設けて欲しいと述べられました。そして、石巻日日新聞の近江弘一社長をご紹介いただき、新聞社と勤務校との共催での小学生対象のサッカー大会開催を決め帰京いたしました。勤務校は、この年創立100周年を迎え、地域振興枠の基金より、10年間継続の資金拠出を許可いただきました。こうして、毎年1月に2泊3日で生徒約30名参加のボランティア活動がスタートすることになりました。

早速、生徒会を中心としたプラン作りが始まりました。門脇小学校・大川小学校訪問、石巻日日新聞社壁新聞についての講話、被災者の方の講演、仮設住宅の皆様との交流、炊き出し、飲み物提供、キックターゲット、縄跳びなどのゲームの実施、景品の提供等です。委員となった生徒たちは、全校集会で、被災地の現状を映像で紹介し、千羽鶴作成や寄付金、ゲームの景品文具の提供、ボランティア募集等の提案をしました。

当時、宿泊施設などどこにもなく、初年度はNPO法人JENのご好意により寝袋で泊まれる場所を提供していただきました。

2013年第一回少年少女サッカー大会が開催されました。多くのチームがユニフォームが無く、寄付されたジャージにビブスを着て戦い、メンバーも人数が揃わないチームもありました。スタンドには、亡くなったチームメイトやコーチの遺影がひっそりと置かれていました。雨が大雪になっても中止を言い出す人は皆無で、



雪の中でのサッカー大会

シュートを空振りするとスタンド中に響き渡る応援の笑いの渦がどっと湧き上がりました。仮設住宅での「お茶っこ飲み会」での交流では私たちの方が励まされ「支援」の言葉が恥ずかしく思われました。生命が存在しているそのことの大切さを宮城の方々から毎年繰り返し教えられています。大会は、残念ながらコロナ禍で、第7回実施後中断しています。

近年、世界では、この生命の大切さが軽視されている現実があります。様々な文化の人々が、多くの試練のリトマスを経て希求し育て上げようとした同一性は、次のような決意に昇華しました。「すべての人間は、生命、自由、幸福の追求の権利を持ち、これを何人たりとも奪われることがあってはならない」

こうした同一性を守る最後の防波堤は、教育です。言論の自由を守る砦は議会であり、「憲法」は、「国」に対して向けられた権力濫用を戒める命令です。これらを学ぶことは、人々の決意を守る原動力となります。子供達の生命への無条件の感動、共感から発動するこのムーブメントは、教育に生き活きとした息吹を吹き込むのです。

教育者として強固な意志を持って、人間の尊厳を守るために、使命を果たしてまいりましょう。